

## 成 2 9 年 度 ちばっ子「学力向上」総合プラン《評価表》

### アクション1 興味ワクワク「読書・体験学習」チャレンジプラン

（「読書活動や体験活動を通じた学習意欲の向上」の視点）

#### ◎子どもたちの学習意欲を高めるための取組が充実しているか

| 事 業 名                       |
|-----------------------------|
| 11 確かな学びの早道「読書」事業の推進        |
| 12 優良・優秀学校図書館認定事業の実施        |
| 13 「小・中・高連携の特別授業」による体験学習の促進 |
| 14 特別非常勤講師配置事業の推進           |
| 15 「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業の推進     |
| 16 学びの「総合力・体験力」コンテストの開催     |

評価（a：十分満足できる    b：概ね満足できる    c：不十分である）

| 評価の観点           |   | 学力向上PT会議による評価   |          |
|-----------------|---|---|----------|
| 事業番号-事業担当者の自己評価 |   | 評価コメント  | 評価       |
| ア               | 学校図書館が様々な学習活動で活用され、学力向上や読書活動推進の取組の充実につながっているか<br><br><p style="text-align: center;"><u>11-b</u> <u>12-a</u></p>   | 優良・優秀学校図書館認定数増加とに伴い、学校図書館の「読書センター機能」の充実ぶりがうかがえる。今後「学習センター機能」のより一層の充実が期待される。                                       | <u>b</u> |
| イ               | 子どもたちの体験学習の機会の充実が図られているか<br><br><p style="text-align: center;"><u>13-b</u> <u>14-a</u> <u>15-a</u> <u>16-a</u></p>  | 各事業とも、活用後の報告書やアンケートには、非常に良好な回答が寄せられるなど、貴重な体験学習の機会の提供ができ、その充実が図られているといえる。  | <u>a</u> |
| ウ               | 学校等で体験学習の重要性についての理解が図られているか<br><br><p style="text-align: center;"><u>13-a</u> <u>14-b</u> <u>16-b</u></p>   | 特別非常勤講師活用の満足度と今後の活用希望がとて多いので、新学習指導要領に対応する分野での非常勤講師の配置が望まれる。「小・中・高連携の特別授業」は、より専門性の高い授業が展開され、その重要性が各学校で理解されているといえる。 | <u>b</u> |
| エ               | 学校図書館の活用や体験学習により、子どもたちの学習意欲が向上しているか<br><br><p style="text-align: center;"><u>11-b</u> <u>12-b</u> <u>13-a</u> <u>14-a</u> <u>15-a</u><br/><u>16-a</u></p> | 各事業内容が子どもたちにとって魅力的なものであり、また学校でその取組に工夫が加えられていることで、より学習意欲の向上につながっている様子がうかがえる。                                       | <u>a</u> |

○「アクション1」の関係者評価（学力向上PT会議コメント）

学校図書館の活用、体験学習ともに各学校の取組の充実ぶりがうかがえる。

新学習指導要領への移行を見据えた各事業の見直しによる効果が、今後期待できる。

- 「アクション1」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）
- ・各観点の評価については、妥当である。

◇「アクション1」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア（11・12）「b」評価は妥当である

- ・中学校においては、学校図書館の活用について、年間指導計画に位置付ける等、学校図書館活用の促進に、今後さらに取り組んでいくことが望まれる。

観点イ（13・14・15・16）「a」評価は妥当である

- ・「小・中・高連携の特別授業」や「お兄さん、お姉さんと学ぼう」等、体験学習の機会がよく提供され、子どもたちの学びの手がかりとなっている。

観点ウ（13・14・16）「b」評価は妥当である

- ・学校等において、体験学習の重要性を理解するために、体験学習の評価をどのように考えるか、体験学習の評価をどのようにするか、という観点が今後必要ではないか。

観点エ（11・12・13・14・15・16）「a」評価は妥当である

- ・学校図書館の活用、「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業等の充実により、子どもたちの学習意欲がととも向上していることがわかる。今後ともますます推進していくことが望まれる。また、これらの体験学習を通して、地域で子どもたちを育てることの重要性が、さらに明らかになったのではないかと捉えられる。

## アクション2 「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン

(「子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実」の視点)

### ◎子どもたちの学習を充実させるための取組の成果が上がっているか

| 事業名                                     |
|---|
| 21 千葉県学習サポーター派遣事業の充実                    |
| 22 「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進                   |
| 23 「ちばっ子チャレンジ100」及び「学びの突破口ガイド」の活用 (小学校) |
| 24 「ちばのやる気」学習ガイドの活用 (中学校)               |
| 25 「SSH」などの活用による理数教育の充実                 |
| 26 「中高生の科学研究実践活動」の推進                    |
| 27 科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア大会の開催               |
| 28 「SGH」の活用によるグローバル教育の充実                |
| 29 子どもたちの学びを支える英語教育強化推進事業の実施            |
| 210 進学指導重点校における教育活動の充実と普及               |

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

| 評価の観点   | 学力向上PT会議による評価  |          |
|---|--|----------|
| 事業番号-事業担当者の自己評価   | 評価コメント   | 評価       |
| ア 子どもたちの学習を充実させるための調査・研究・指導がなされているか<br><b>21-a 25-b 26-b 27-a 28-b 29-b 210-b</b> | 各事業における当該校の取組には様々な工夫が見られる。それらが子どもたちの具体的な姿につながり、それを基に改善が図られていくことを期待したい。 | <b>b</b> |
| イ 子どもたちの学習を充実させるための調査・研究に関する啓発がなされているか<br><b>26-b 27-b</b>                        | 科学の甲子園 (ジュニア) は、魅力的な事業であり参加者が増えることで理数教育の充実に繋げていくことを期待したい。              | <b>b</b> |
| ウ 子どもたちのための学習資料の活用につながる取組は充実しているか<br><b>22-b 23-a 24-b</b>                        | 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習資料の提供は有効であり、より効果的に継続していくことを期待する。                  | <b>b</b> |
| エ 子どもたちのために作成した学習資料の活用状況はどうか<br><b>22-b 23-a 24-b</b>                             | ホームページへのアクセス数は概ね良好な状況であるが、より有効性の高い活用がなされることを期待したい。                     | <b>b</b> |

○「アクション2」の第三者評価 (学力向上推進会議コメント)  
・適切な評価が行われている。

◇「アクション2」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア (21・25・26・27・28・29・210) 「b」評価は妥当である

- ・SSH、SGH や教育重点校だけにとどまらずに、一般の学校に同様の取り組みが普及すれば尚良い。

観点イ (26・27) 「b」評価は妥当である

- ・科学の甲子園の取り組みとその内容は非常に充実しており参加している高校生のやる気も感じられた。ただ、広く知られていないのが残念である。テレビで取り上げる等、メディアを使ったPRを行うことで、参加する高校生のモチベーションアップにつながる、また、参加校も増えるであろう。2017年度は公立校が優勝したが指導方法も公表されると、他の学校の参考となり結果的に大会全体のレベルアップにつながるのではないだろうか。

観点ウ (22・23・24) 「b」評価は妥当である

- ・パンフレットの配布の有無や、ホームページのアクセス数での評価が主になってしまっている。評価が難しい側面もあるが、ホームページや資料から得られた知識を利用者がその後どう自分の実践に生かしたかを追跡調査するとよいのではないか。

観点エ (22・23・24) 「b」評価は妥当である

- ・児童生徒であれば、ホームページやパンフレットに載っている資料によって、家庭学習のやり方や時間等がどのように変わったか。教師であれば、授業改善に具体的にどのように生かしたかまで、数件の事例で構わないので調査を行い、評価に含めてほしい。

アクション3 子どもいきいき「授業力アップ」プラン  
 (「授業力の向上による学びの深化」の視点)

◎授業力向上の取組の成果が上がっているといえるか

| 事業名                         |
|-----------------------------|
| 31 「ちばっ子の学び変革」推進事業の実施       |
| 32 ちば「授業練磨の公開日」の実施          |
| 33 「魅力ある授業づくりの達人」認定・活用事業の推進 |
| 34 「学力向上交流会」の開催             |
| 35 「私の授業レシピ（秘訣・秘伝）」活用事業の推進  |

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

| 評価の観点           |   | 学力向上PT会議による評価   |          |
|-----------------|---|---|----------|
| 事業番号-事業担当者の自己評価 |   | 評価コメント  | 評価       |
| ア               | 学力向上施策の理解が図られ、授業改善のための取組が充実したものになっているか<br><br><u>31-a 32-b 34-b</u> | 各事業の参加者の意識調査の結果から、授業改善に係る教員の意識向上がみられる。高等学校における授業改善がさらに進むことを期待したい。<br>学力向上交流会等は、新学習指導要領の実施に向け、資質・能力をどう育成するかといった議論や学校間の情報交換を教員同士が直接できる場の提供として貴重であると捉えられる。 | <u>b</u> |
| イ               | 教師力・授業力向上をけん引する人材の育成・発掘ができているか<br><br><u>33-b</u>                   | 達人に認定された方たちの、新学習指導要領に対する理解や実践がなされている様子がうかがえる。   | <u>b</u> |
| ウ               | 教師力・授業力向上のための資料提供は十分にできているか<br><br><u>31-a 35-b</u>                 | 新学習指導要領を踏まえた資料提供ができつつある。内容の一層の充実が図られていくことを期待したい。<br>「ちばっ子の学び変革」推進事業における研究指定校での先進的な取組を、他の「学力向上」事業とも関連させ、授業モデル等の形として残し、蓄積していく方法も検討する必要がある。                | <u>b</u> |
| エ               | 授業改善や授業力向上を図る取組の成果が上がっているか<br><br><u>31-a 32-b 33-a 34-a</u>        | アンケート調査等から、教師の授業に対する意識の向上がうかがえる。児童生徒のアンケート結果の良好の回答も、その裏付けとなっていることが分かる。  | <u>a</u> |

○「アクション3」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)

新学習指導要領への対応やその趣旨を踏まえた内容の充実が図られつつある。小・中学校での取組を高等学校にもよい形で繋げ、子どもたちの資質・能力の育成を図るための授業改善が、どの学校においても展開されていくことを期待したい。

○「アクション3」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）

- ・それぞれの観点についての評価は妥当である。
- ・各事業は、各地域、各学校に広く周知されており、システム化され活用されている。さらに、新学習指導要領の実施に向け、新しい学力観に基づいた、授業改善を進めていけるよう、先進校や達人の優れた実践を広めていくことが望まれる。

◇「アクション3」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア (31・32・34) 「b」評価は妥当である

- ・「ちばっ子の学び変革」は研究指定校の公開研究会を通じて、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりの方法や校内研究のあり方について、多くの参加者により具体的なイメージとして共有された。今後さらに各校に実践を広げていくことと、新規の研究指定校の取組を通じてさらに深化・発展させていくことが求められる。
- ・「授業練磨の公開日」や「学力向上交流会」は他校の取組や県の学力向上事業について知る良い機会となっており、各校の授業改善に寄与している。高等学校において、参加者は増えてきているが、さらにこれらの事業が活用されることが望まれる。

観点イ (33) 「b」評価は妥当である

- ・「魅力ある授業づくりの達人」事業は各小学校の校内研究会や若手育成研修会などで活用され、授業改善に役立っている。一方、達人に認定されることで、達人自身の指導力の向上にも結び付き相乗効果を生んでいる。さらに、プログラミング教育や外国語活動といった新しい分野の人材を充実させることが期待される。

観点ウ (31・35) 「b」評価は妥当である

- ・「ちばっ子の学び変革」研究校の実践について、推進セミナーや学力向上交流会などの研修会や千葉県教育委員会の広報紙、HPを通して資料提供は行われている。さらに、最新の情報や授業モデルをHP等でダウンロードできるようにするなど、閲覧しやすい形にしていくことが求められる。
- ・「私の授業レシピ」の登録数は増えてきているが、さらに新しい登録を増やし、年度ごとに最新の情報を加えていく必要がある。

観点エ (31・32・33・34) 「a」評価は妥当である

- ・新学習指導要領の実施に向けて、各事業とも教員の意識改革や授業改善につながる好機になっていることが参加者のアンケートから読み取れる。また、「ちばっ子の学び変革」では研究指定校の教員及び児童生徒の意識の変容が見られ、児童生徒が仲間とともに主体的に学び、思考力や表現力の向上につながっていることがわかる。若手教員が増えている中、成果を上げていると評価できる。

## アクション4 「評価・改善」アクティブプラン

(「学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進」の視点)

### ◎「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の「評価・検証システム」が有効に機能しているか

| 事業名                              |
|----------------------------------|
| 41 「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活用促進 |
| 42 「学力・学習状況」検証事業の推進              |
| 43 「学力向上推進会議」の開催                 |

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

| 評価の観点           |   | 学力向上PT会議による評価  |                 |
|-----------------|---|--|-----------------|
| 事業番号-事業担当者の自己評価 |   | 評価コメント   | 評価              |
| ア               | 全国学力・学習状況調査の活用に向けた取組の成果が上がっているか<br><br><b>41-C 42-b</b>       | これまでの継続的な働きかけにより、県の分析ツールを用いた結果分析の実施は定着したので、事業も次の段階に進む必要がある。今後は、その分析結果を具体的な授業改善にどう生かし、どのような成果が上がったのかを、各校が明確にしていくことに視点を置くことが大切である。 | <b><u>b</u></b> |
| イ               | 「検証協力校」において、学力向上に向けた取組が充実したものになっているか<br><br><b>42-a</b>       | 検証協力校の具体的な取組が、授業改善に確実に反映されており、文部科学省が掲げる「全国学力・学習状況調査」の目的にかなったものとなっている。  | <b><u>a</u></b> |
| ウ               | 学力向上推進会議の企画・運営方法は適切であり、学力向上施策の充実につながっているか。<br><br><b>43-a</b> | 会議での評価や事業に対するコメントが、各事業の改善につながってきつつあることがうかがえる。  | <b><u>a</u></b> |

#### ○「アクション4」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)

「全国学力・学習状況調査」も10回目を終え、各校では、調査の実施と共に、結果分析実施の定着が図られてきた。また、検証協力校においては、具体的な授業改善の取組がなされ、その充実ぶりがうかがえる。今後は、県内の全小・中学校がこの調査を教育課程の中に明確に位置づけて学力向上を図っていくこと。そのために、該当教科や該当学年だけではなく、全校体制でより効果的な調査の活用方法を模索し、その取組による成果を明らかにしていくことが求められる。

○「アクション4」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）

- ・評価は妥当である。
- ・「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活用については、数年単位のデータの蓄積、及び経年変化を追うことで、傾向が見られ対策を立てるなど、各学校での有効な活用につながっている。今後も検証協力校での具体的な取組が、県内各学校に広く周知され、実践されることによって、検証の仕方や授業改善について更に検討されていくことが期待される。

◇「アクション4」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア (41・42) 「b」評価は妥当である

- ・「全国学力・学習状況調査」の分析ツールが使いやすいものであり、各学校での傾向の把握、及び授業改善に役立つものとなっている。今後も活用促進に向けた取組がなされることが望まれる。
- ・分析ツールの利用については、学校間で利用の差があるのも事実である。分析結果をもとにした活用事例等、検証協力校からの情報発信の仕方の工夫が必要ではないか。
- ・学校現場では、学力調査ばかりに目が向く傾向がある。質問紙との相関関係をどのように分析することがよいのか、その分析の観点を示していくことも検討していく必要があるのではないか。

観点イ (42) 「a」評価は妥当である

- ・検証協力校では、児童生徒並びに教職員の前向きな姿勢から、学力向上に向けた授業改善や様々な取組の充実が感じられる。今後も検証協力校を発信拠点とした学力向上への取組を継続して欲しい。
- ・検証協力校では、協議会等での取組状況の情報交換が、互いの学校の刺激となったり、改善につながったりしている。協議会の内容も、何らかの形で地域や学校に発信できたら、より効果が上がるものと考えられる。

観点ウ (43) 「a」評価は妥当である

- ・学力向上推進委員の事業視察は充実されており、評価に客観性を持たせるために有効な取組であると言える。しかし、委員がすべての事業を視察することはできないので、どう改善したらよいかを検討していくことも大切である。
- ・学力向上推進会議の運営については、概ね適切であると言える。また、会議の存在も、ホームページへの掲載等の改善が行われている。今後は、目的、意義も含めた周知を、各学校に更に促したい。



アクション5 「教師カトップ」アクティブプラン  
 (「信頼される質の高い教員の育成」の視点)

◎教師力向上の取組の成果が上がっているといえるか

| 事業名                           |
|-------------------------------|
| 51 「千葉県教職員研修体系」に基づく研修事業の充実・推進 |
| 52 「若手教員育成推進員」活用事業の推進         |

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

| 評価の観点           |  | 学力向上PT会議による評価   |                 |
|-----------------|--|---|-----------------|
| 事業番号-事業担当者の自己評価 |  | 評価コメント  | 評価              |
| ア               | 教職員研修の改善が図られ、充実したものとなっているか<br><br><b><u>51-a</u></b>                   | 新学習指導要領への対応や今日的な課題に即した研修の充実が図られている。また、研修スタイルにも見直しがかかり、参加者の主体的な取組が見込まれる研修が多くなっている。 | <b><u>a</u></b> |
| イ               | 教師力向上をけん引する人材の発掘がなされ、若手教員の育成を図る取組の成果が上がっているか<br><br><b><u>52-a</u></b> | 若手教員の増加に伴い、研修スタイルにも工夫を凝らした取組がなされている。  | <b><u>a</u></b> |
| ウ               | 教師力向上を図る取組の成果が上がっているか<br><br><b><u>51-a 52-a</u></b>                   | 研修参加者アンケートの良好な回答状況から、教員の授業に対する意識向上が図られたといえる。                                      | <b><u>a</u></b> |

○「アクション5」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)

増加傾向にある若手教員の資質能力向上は喫緊の課題である。また、「千葉県・千葉市教員等育成指標」と研修事業との一体が図られた研修、新学習指導要領等に即した研修の充実、質の高い教員養成に向けますます重要であり、各事業の充実が今後も望まれる。

○「アクション5」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）

- ・全体として評価は妥当である。
- ・若い先生方が、目的意識を明確にもって研修に臨んでいるということが非常によい。この事業が目指す方向性に向かっている。
- ・「すべては子どもたちのために」と、教職員が質の高い教師力を身に付けるための研修が更に充実されることを期待したい。

◇「アクション5」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア (51) 「a」評価は妥当である

- ・学校現場だけでは対応できない、様々な研修が企画運営されている。信頼される質の高い教職員を育てるための研修内容の改善・工夫が図られていることが、参加者の満足感が高いアンケート調査の結果から感じられる。
- ・新学習指導要領や、時代に即した教育課題を踏まえた研修が継続されることを期待したい。

観点イ (52) 「a」評価は妥当である

- ・若手教員育成推進員が、若手教員のニーズを把握し、研修を企画・運営している様子が伝わってくる。さらに参加者が、その研修を肯定的に捉えているというのは、非常によい研修がなされていると考えられる。また、学校にとっても非常に有効である。対象教員が、研修会等に参加しやすい働きかけがなされると更によい。

観点ウ (51・52) 「a」評価は妥当である

- ・参加する教員が課題意識を持って研修に臨んでいることが、アンケート結果から推察される。研修がより課題に即し、機能していることが窺える。研修の実施時期の検討もされているようなので、今後も、より若手教員の声を反映した充実した研修がなされるとよい。
- ・非常勤講師等の研修参加について、さらに検討されていくことが望まれる。

<総合評価> 「ちばっ子『学力向上』総合プラン」

◎「ちばっ子『学力向上』総合プラン」は各学校における児童生徒の学力向上の取組の活性化につながっているといえるか

※ ちばっ子「学力向上」総合プランの全体を評価する。

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

| 評価の観点           |   | 学力向上PT会議による評価   |          |
|-----------------|---|---|----------|
| 事業番号-事業担当者の自己評価 |   | 評価コメント  | 評価       |
| ア               | 各プランの評価が適正になされているか<br><br><b>全体</b>       | 昨年度を踏まえ、各事業の評価方法を変えて観点別の評価を取り入れたことで、各事業の評価の適正化が図られきたと言える。評価の観点は昨年度からのものであり、一定期間の継続的な評価が必要であるが、見直しが必要なものは修正の必要があるのではないか。 | <u>a</u> |
| イ               | 前年度の評価を生かした今年度の改善の成果はどうか<br><br><b>全体</b> | 昨年度の評価の観点の見直しを受け、昨年度の評価や学力向上会議のコメントを踏まえた事業展開がなされてきたことがわかる。  | <u>a</u> |
| ウ               | 各アクションを総括しての達成度はどうか<br><br><b>全体</b>      | 各事業は、概ね満足できる状況にある。新学習指導要領等を踏まえた事業の内容や方向性、重点事項の見直しが始まりつつあり、今後も継続した事業の改善への取組を期待したい。                                       | <u>b</u> |

○ちばっ子「学力向上」プラン全体の関係者評価（学力向上PT会議コメント）

新学習指導要領への移行を踏まえ、各事業がそれを踏まえた見直しや修正が、適時始まりつつあり、進展が図れているといえる。今後は、各事業の充実を図っていくことに加え、事業間の連携を検討したり、様々な機会を生かして、変更点や修正点の周知を図っていったりする必要がある。

○ちばっ子「学力向上」プラン全体の第三者評価（学力向上推進会議コメント）

- ・評価は妥当である。

◇ちばっ子「学力向上」プラン全体に対する学力向上推進会議委員の意見

- ・学力向上推進会議委員のコメントに対する改善点が、昨年度より分かるようになっており、評価できる。
- ・評価と改善の関係をより視覚的に捉えやすくすることで、課題改善が明確になると思われる。
- ・年度ごとの評価以外に、年度内の時期ごとの形成的評価の情報があると、評価を決定する際の参考になる。
- ・指定校の学力が向上したり、若手教員の育成が図れたりするなど充実した取組が行われている。
- ・学力向上交流会の参加を地域以外に広げたり、保護者参加も考えたりするなど、事業間の連携やより広報が図れる工夫ができると思う。
- ・学力向上事業を多面的にとらえようとする評価方法は今後も大事にしてほしい。
- ・事業は単独ではなく、相互に関連して成果を上げており、今後も期待できる。